

道徳科学習指導案

主題名「法やきまりの意義」〔学指要領：C 遵法精神、公德心〕

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時 〇〇〇〇教室
〇〇立〇〇中学校 3年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇

I 主題設定の理由

1 価値観

法やきまりを守ることは、安定した社会の実現に貢献することであると考える。なぜなら、集団に秩序を与えるものである法やきまりが守られると、規律ある社会が生まれるとともに、そこに生きる全ての人の権利が大切にされ、安全で快適な生活を維持することにつながるからである。

中学生の時期は、学年が上がるにつれて、社会の中で生きているという自覚も深まり、法やきまりについてそれらの意義を一層理解することができるようになる反面、法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分本位の考えを優先して正しい判断ができなかったりして守れない場面も生じてくる。

そこで、法やきまりの意義を理解し、それらを自律的に捉えて守ることで安定した社会が実現することに気づき、社会の秩序と規律を自ら高めたいこうとする意欲を持ち、実践できる力を養うことが大切である。

2 生徒観

本学級の生徒は、これまでの授業や学級活動、学校行事や部活動を通じて、集団生活を送る上でのきまりやマナーの意義、守ることの大切さについては捉えている。多くの生徒が、きまりを守り落ち着いて学校生活を送っているが、「これくらいなら大丈夫」と自分本位に考えて判断したり、友達の考えに流されて行動したりすることで、きまりを守れないことがある生徒もいる。また、「きまりは守らなくてはならない」という意識は強いが、「きまりだから守る」と他律的に捉えている生徒も多く、きまりの意義について深く考えている生徒は少ない。

これらのことから、本授業を通して、「法やきまりは、集団に秩序を与え社会を安定させるものであり、それらを守ることは、自分たちの生活を守ることであり」という法やきまりの意義を理解し、それらを自律的に捉えて守ろうとする道徳的判断力を育てたい。

3 教材観 教材名「二通の手紙」（出典：私たちの道徳 文部科学省）

元さん（主人公）は動物園の規則を知っていながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことが問題となり、その結果、懲戒（停職）処分を受けることになるというあらすじである。

本教材は、姉弟を入園させた主人公の行動と規則を守らなければいけないという規範意識から、「思いやり」と「遵法精神」の道徳的価値の対立を通して、主人公の姉弟への思いやりの心や人間としての温かな気持ち、例外を認めようとする時の気持ちに寄り添いつつも、全ての人々が安心して生活できるためにあるという規則の意義、それを遵守することの大切さについて考えることができる。

そして、主人公が、母親からの「感謝の手紙」と、動物園からの「懲戒処分の通告書」を基に、規則の意義や社会における人間としての生き方を振り返り、自ら職を辞して晴れ晴れとした顔で職場を去る場面での思いを考えることで、法やきまりを遵守することが人々を守り規律ある安定した社会の実現につながることに気付ける適切な教材となっている。

II 本時の学習

- ねらい 晴れ晴れとした顔で職場を去る元さん（主人公）の思いから、規則の意義を多面的・多角的に考えるを通して、法やきまりを進んで守ることの大切さに気づき、秩序と規律ある安定した社会を実現しようとする道徳的判断力を育てる。

2 展開

主な学習活動 主な発問（◎中心発問 ◇補助発問） 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 本時で扱う道徳的価値について、問題意識を持つ。（5分） S：きまりは守るべきと分かっているけれど、守れないこともあるな。 <めあて> 法やきまりを守ることが大切なのはなぜだろう。 	○法やきまりの意義について問題意識を持てるように、事前アンケート結果を提示し、きまりを守れなかったことや、きまりがあって困ったことを問いかける。 ○自己の生活を振り返って考えることができるように、アンケート結果を掲示しておく。
<ol style="list-style-type: none"> 教科書の教材文の範読を聞く。（10分） 教材を通して、道徳的価値についての考えを持ち、交流する。（20分） ◎「晴れ晴れとした顔で職場を去る元さんは、どのようなことを考えていたのでしょうか。」 S：来園者の安全を守るために規則があるという意識が低かった。姉弟や園に何事もなくてよかった。 S：確かに、姉弟を危険な目に遭わせたかもしれない。園にも迷惑をかけた。はじめをつけよう。 S：いずれにしても、規則を守ることの大切さに改めて気付くことができてよかった。 ◇「姉弟や母親に感謝されているのだから、自分から辞める必要はなかったのではないのでしょうか。」 S：これを教訓にして、仕事を続けることもできるな。 S：だけど、停職処分では自分の中で納得できず、規則を破ったことをもっと重く受け止めているのかな。 S：なるほど、自分が辞めることで、規則を大切にす、より安全な園になると思っていたのかな。 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（10分） S：法やきまりを守ること、自分の生活を守ることができる。 S：法やきまりは、人々の安全や安心、社会の秩序を守るためにある。 	○話し合う場面を焦点化できるように、登場人物の気持ちや場面、状況などに着目しながら範読を聞くよう促す。 ○元さんの葛藤する気持ちを考えられるように、自分が元さんの立場だった場合の行動（入れる・入れない）を一覧表示してその理由を問いかける。 ○規則に対する多様な考え方を知り、自己の考えを広げられるように、グループで自他の考えの共通点や相違点を基に道徳的価値について話し合うよう促す。 ○元さんの思いから規則の意義について多面的・多角的な見方や考え方ができるように、生徒の考えを「規則の大切さ」、「姉弟や母親、動物園で働く人達への思い」、「元さんの立場」等、視点ごとに整理して板書する。 ○「後悔はない」と考える生徒がねらいとする価値に迫れるように、妹弟を園に入れた行動の是非に対する元さんの考えについて問いかける。 ○法やきまりの意義やそれらを守ることの大切さについて深められるように、法やきまりによって守られていることを問いかける。 ○他者の考えを参考にしながら、自分の考えをより確かなものにできるように、道徳的価値に迫る生徒の考えを意図的に指名して紹介し、法やきまりを守ることのよさや難しさを考えるよう促す。
<ol style="list-style-type: none"> 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。（5分） <振り返り> S：「これくらいなら大丈夫」ときまりを守れなかったこともあったけれど、法やきまりは人々の安全な生活を守るためにあるのだから、その意味をしっかりと考えて守っていくことが大切だと思った。 	○自己の生き方につなげられるように、道徳的価値に対するこれまでの考えや、法やきまりについて新たに考えたこと、気付いたことを学習用端末に記述するよう促す。
◆評価の視点 <ul style="list-style-type: none"> 発言、ワークシートの記述から、「法やきまりの意義、それらを守ることの大切さや難しさなどを多面的・多角的に考えているか」を評価する。 発言、ワークシートの記述から、「自分の生活に関わる法やきまりの意義を見直し、それらを守ることの大切さについて考えているか」を評価する。 	